

インターンシップ(林業就業体験)を実施しました

平成25年6月26日から6月28日の3日間、岩見沢農業高校森林科学科2年生の生徒5名を受入し、インターンシップ(林業就業体験)を実施しました。

桃木署長から3日間の就業体験に当たっての心構えやカリキュラムの概要等説明を受けた後、初日の体験がスタートしました。

午前中は、管内概要・日程等の説明を森林技術指導官から、各グループの概要を工藤総括事務管理官・中川総括森林整備官等から説明し、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



午後からは、現地に向かい、月形スギ保護林【月形町・国有林】で植栽の経緯等を森林技術指導官から説明、隣接の月形町有林に補植したスギのコンテナ苗木を見学し、コンテナ苗木についての講義も現地にて行いました。↓



場所を移動し、防風保安林【美唄市・国有林】にて、中山主任森林整備官から防風林の現況と今後の課題などを説明、時折クイズ形式の質問も交え初日を終了しました。

→



2日目

午前中は、実際に森林での仕事を体験してもらうため、利根別自然休養林(国有林)内にて、間伐箇所周囲テープ付けや輪尺で胸高直径を計測したり、野帳の記入、樹高を計測したりと森林官さながらに取り組んでいました。佐藤主任森林整備官と高橋職員がデモンストレーションとして調査の実演を見せたところ、生徒から「早い」「凄い」と言った驚きの声があがるなど、どうしたらそんなに早くできるのかとの質問もあり、目を輝かせながらの調査となりました。



←(テープ付け)



←(輪尺による胸高直径の計測)

(樹高の計測)→



(野帳記入)→



午後からは、境界巡検を体験。

図面、巡検簿、見出し標等の見方やコンパスを使用しての境界標の探し方、作業方法について、佐藤主任森林整備官から説明と実際の実演を受け、生徒主体で実際に境界標を探してもらいました。最初は、境界標があると思われる箇所から離れていくなど若干の軌道修正が必要になる場面がありましたが、慣れていくに従って次々と探しあてて、ペンキの塗り替えや見出し標の文字修正などに汗した実習となり、2日目を終了しました。



←(生徒だけによる次の境界標探索)



←(境界標が分かるようにテープ付け)

(境界番号の消えた見出し標に書き直し)



←(赤スプレーで塗り直し)

3日目(最終日)

午前中は、グループの事務を体験してもらいました。

資源活用関係では、効率的に搬出するためにどのように作設したらよいか、図面、空中写真を配布し必要な留意事項を説明のうえ、机上で路網作設(森林作業道)を演習してもらいました。



生徒同士で話し合ったり、職員に聞いたりと思い思いに図上に路網を描いていました。

作成後、生徒と担当者が作成したものを比較しながらまとめを行いました。中には大胆な発想で作成した生徒もあり、有意義な時間となりました。

総務関係では、起案した文書の完了・保存処理を杉尾主任事務管理官から説明を受けながら、多少緊張した面持ちで体験していました。



経理関係では、刷新システムで物品管理の処理を担当者等から説明を受けましたが、生徒全員のみ込みが早く、逆に操作間違いを指摘される場面もありました。

午後一番に、「森林官の仕事」と題して下原首席森林官から洞爺丸台風で起きた森林被害などの話を交えた講義を行いました。



次に若年職員との意見交換会を担当の持田先生を交え実施。事前にもらった質問に回答しながら、時には職員の本音も交え、笑いあいの楽しい時間でした。



すべてのカリキュラムを終え、署長室にて就業体験の感想を生徒一人一人から述べてもらい、桃木署長から今後に向けての激励の言葉を生徒へ掛けられすべての日程を終了しました。



最後に、署長をはじめ職員一同、公務員志望の5名の生徒が今後益々精進され、来年合格することをお祈りしております。